



ネットワークの可視化と高度なログ分析で安定運用と管理者負担の軽減を実現

新たな働き方を推進する Extreme Networks のワイヤレス LAN ソリューション

業務内容

物流サービス

課題

- ワイヤレス LAN の接続が不安定で実運用に課題
- 障害発生時の原因特定が困難

導入製品

- AP305C-WR
- X440-G2-24p-10GE4
- X465-24XE
- ExtremeCloud™ IQ - Site Engine

成果

- 実働に耐えるワイヤレス LAN 環境の整備を実施し、新オフィスでのフリーアドレスを実現
- ネットワークの可視化が向上し、障害原因の特定が可能に
- Extreme Networks 日本法人とパートナーの的確なサポートにより障害対応を迅速化

さまざまな物流サービスを展開する SBS ホールディングス株式会社では、本社移転を契機にホールディングスが管轄する統合ネットワークへのアクセス手段としてオフィスのワイヤレス LAN 環境を整備。安定した稼働実績と詳細なログによって高度な可視化と分析が可能な Extreme Networks のワイヤレス LAN ソリューションを採用しました。

本社移転を契機に、実運用に耐えられない無線 LAN からの脱却を目指す

1987年に創業した SBS ホールディングス株式会社は「For Your Dreams.」をグループスローガンに掲げ、顧客に最適なロジスティクス設計を実現する「ハイブリッド・ロジスティクスソリューション」を提供しています。2018年にリコーロジスティクス、2020年には東芝ロジスティクスをグループとして加えるなど、積極的な M & A により事業規模を拡大。将来の売上高 7000 億円越えを視野に成長を続けています。



グループ IT インフラ統括部
IT インフラ戦略課長 宮崎 健氏

同社では、コロナ禍にあった 2021 年に本社移転を計画。テレワークも含めたハイブリッドワークを実現すべく、新オフィスではワイヤレス LAN の利用を前提としたフリーアドレスが採用されました。

「かつての本社は有線 LAN を中心とした、固定 IP によるデスクトップ PC で業務を行っていました。一部無線 LAN も導入していましたが、通信の切断などが頻発し、その原因究明もなかなか進まないなど実運用に耐えられない状況がありました」と宮崎氏は当時を振り返ります。

課題特定に欠かせない高度な Analytics 機能が大きな魅力に

以前導入していたワイヤレス LAN は「通信が遮断した」というレベルでしかログが確認できず、根本的な原因の解析をメーカーや構築パートナーに依頼しても説明が難しかったといいます。

「障害発生時には、いろいろなログを取得してつなぎ合わせて解析するだけでなく、パケットキャプチャを取得したり、ファームウェアをアップデートしたりするなど、多くの作業に奔走しなくてはなりません」と語るのは、同課 プロフェッショナル 江守 英昭氏です。

このような背景もあり、新オフィスでは詳細なログ分析ができるソリューションを採用したいと考えていました。有線 LAN の通信状況に加えて、ワイヤレス LAN の通信品質も可視化



グループ IT インフラ統括部
宮崎 健氏 (右) と江守 英昭氏 (左)

することで、有線・無線の横断的なモニタリングが行えることも重視しました。

検討の結果、Extreme Networks のスイッチおよび Wi-Fi ソリューションを採用することを決断しました。詳細なログ分析が可能な Analytics 機能や RADIUS によるユーザー認証が可能な基盤を有していること、また、コロナ禍ながら納期通りの調達が可能であったことも決定を促した大きな要因でした。「目に見えない無線環境であっても可視化が容易で、エンジニアが高度な調査を行う上で必要となる詳細なログが取得でき、障害の原因究明がしやすいとパートナーから強く推奨されたことが大きな決め手でした。また、有線・無線も含めて統合的に管理できる点、メーカーからのパートナー支援が充実している点も評価しました」と宮崎氏は話します。

ExtremeCloud IQ - Site Engine により、認証基盤と分析基盤、他社製 AP を含むネットワーク全体を統合管理



グループ IT インフラ統括部 IT インフラ戦略課
プロフェッショナル 江守 英昭 氏

同社では、新宿にある新本社と、複数のグループ企業が集約された大阪の 2 拠点にて Extreme Networks のソリューションを導入。Extreme Networks を中心に構築されている統合ネットワークでは、他社製品も含めて全体で

80 台ほどの AP がフロアに設置されています。これらの AP や認証基盤である RADIUS サーバーなどは ExtremeCloud IQ - Site Engine により一元的に管理しています。

「AP 自体は本社と大阪に展開しており、500 名ほどが無線 LAN アクセスを行っています。Site Engine 上の RADIUS サーバーはそれ以外の拠点における無線の認証基盤としても利用するなど、統合ネットワーク全体での認証基盤としてのコアコンポーネントとして位置づけています」と宮崎氏は説明します。

稼働時から安定したワイヤレス LAN 環境が運用できており、何かあれば Analytics 機能にて詳細なログ分析が可能なので、原因特定も円滑に実施できているとのことでした。

「現場から問い合わせがあればログから詳細な分析を行い、PC のファームウェアが原因だった時はアップデートを実施するなど、運用管理面でも安定化に向けたさまざまな取り組みが可能になりました。使い始めてから、改めて Extreme Networks にしてよかったと実感しています」と江守氏は評価します。

実働に耐えるワイヤレス LAN 環境を整備したことでフリーアドレス化を実現し、オフィスの席替え時に発生していた工事の手間やコストは大きく削減されました。拠点間を移動しながら仕事をする営業担当者からも「複雑な設定変更なくネットワークにアクセスできるようになった」と評価の声が寄せられています。

Extreme Networks については、海外ベンダーでありながら日本の事情に合わせた支援体制が整備されており、その手厚い支援が高く評価されています。「構築当時にインターネット経由で利用する IP 電話がうまくつながらず発生した際には、現場までエンジニアが駆けつけて仕様上の問題を特定したうえで、最終的には米国本社に依頼してファームウェアのアップデートを対応いただいたことも。グローバル企業でありながら、日本人感覚の手厚いサポートをしていただけるなど、今後も安心できる大きな材料となっています」と宮崎氏は高く評価します。

統合ネットワークの更改や新たな企業の参画時にも Extreme Networks が有力な選択肢に

宮崎氏は「今後のリプレイス時にも有力な候補として Extreme Networks を位置づけています。また、成長戦略である M & A が実施された際には、ホールディングス主導でインフラ整備が可能な状況であれば、可能な限り共通インフラとしての Extreme Networks を展開していきたいです」と語ります。

また、普段から運用保守を手掛けている江守氏は「さらなる基盤の強化やセキュアな環境づくりへ向けて、今後検討を進めていきたいと考えています」とのことです。

現在は本社と大阪の 2 拠点へ Extreme Networks を展開していますが、小規模拠点や物流センターなどでもワイヤレス LAN に対するニーズは高い状況です。「コストパフォーマンスに優れた AP など、さらなるソリューション展開に期待しています」と宮崎氏は今後の展開にも期待を寄せています。



<http://www.extremenetworks.com/contact>

©2024 Extreme Networks, Inc. の商標です。Extreme Networks および Extreme Networks のロゴは、米国およびその他の国における Extreme Networks, Inc. その他の名称は、それぞれの所有者に帰属します。エクストリーム ネットワークス商標の詳細については、<http://www.extremenetworks.com/company/legal/trademarks> を参照してください。仕様および製品の提供状況は、予告なく変更される場合があります。